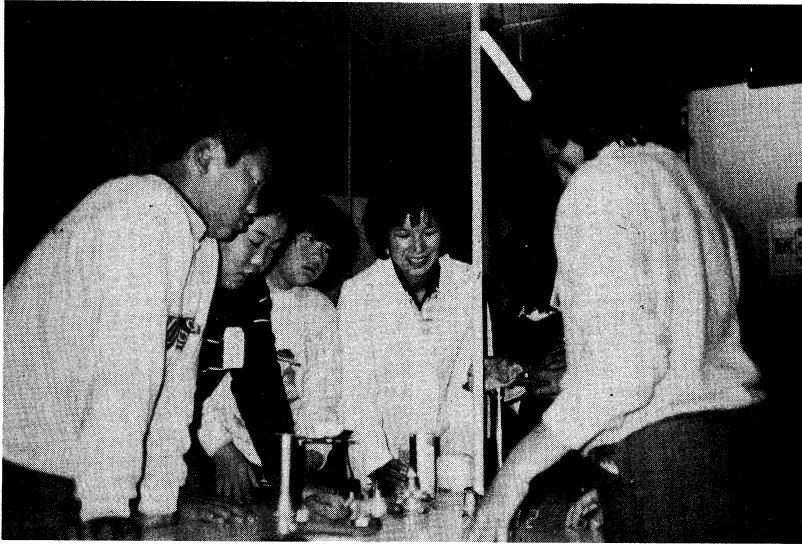


雷神山の教材化と個にはたらきかける

指導はどうあればよいか

白河市立白河第一小学校教諭

深谷 和子



深谷和子先生の授業風景（白河一小）

- ① 主題設定の理由
- (一) 地域の豊かな自然を生かして
雷神山は学校から徒歩五分という
近距離にあり、かつ比較的狭い範囲
に植物相の豊かな特徴を持った山で
ある。(資料1)
- ② 植物分布や生育環境による違い
(資料1)(2)(3)(4)が、子どもたちの
目からもとらえやすい自然の山であ
る。

- ③ 実態調査から理科の好きな子ども
でも、植物教材となると苦手だと言
う子や山そのものが苦手である子が
多い。
- (二) 低次の子どもの学習に目を向けて
① 本校の学習形態は、追究学習であ
り、課題が決まれば、既知事項を生
かし、見通しをもって自分の力で課
題を解決していく形態をとっている。
したがって、全員に学習を成立させ
てやるには、いかにして、低次の子
どもに自立するための手立てを講じ
ればよいか問題となる。
- ② 雷神山には、五つの地区があり
(資料1)(1)一つの地区についてだ
け学習していった子どもでも、単元
のねらいに導いてやれる見通しがあ
る。
- ③ 低次の子どもは、自然の変化を見
すごしてしまうために気づきが少な
く、何をしたらよいか分からないと
いった点が、一人追究のむずかしさ
につながっている。

以上のことから、「雷神山」を子ども
の発達段階に合わせ、教材としての
価値を考えながら、「植物どうしの関係」
という単元の教材化をはかっているこ
うとした。さらに、地域の豊かな自然を
生かすことによって、低次の子どもた
ちの学習を成立させてあげたいものだ
と考えたからである。

二 研究の仮説

- (一) 個人追究学習を重視した一斉追究
学習との二本立て（指導計画省略）

- ① 個に応じた学習
- 上位の子は上位なりの学習内容を
下位の子も下位なりの学習内容を解
決する為に興味深く学習に取り組み、
それでいて、単元の終わりに、全
員がねらいに達成できる為には、個
人追究学習を重視し、一人学習の時
間を十分にとり、さらに、まとめの
段階では、個の学習を十分生かす場
の設定をしたならば、個に合った学
習が成立するであろう。
- ② 単元のねらいに迫る為の一斉学習
○ 個人追究で学習が不十分だった内
容や単元のねらいに迫る為に、大き
な課題を全員で追究し合う時間が必
要になる。その為、個人追究が生か
せ、しかも、みんなで話し合っ
てはじめて解決できる課題を単元の導入
に与え、個人追究と合わせて、ねら
いに迫っていくという二本立てを行
ったならば、満足感、充実感を味わ
せることができるであろう。
- 以上のような二本立てを具体的に言
うと、雷神山全体からとらえた課題を
一斉学習時の課題として、個の追究を
した後で話し合いを持つ。個人追究で
は、自分の力に応じ、一つの地区だけ
取り上げる課題追究の子も四つの地区
五つの地区を取り上げる課題追究の子
も、個に応じた追究をしていき、個の
追究の補い合いを一斉学習を行うとい
うことであれば、無理なく個の学習を
成立してやれるだろうと考えた。